

国公幼稚玉大会提言資料、和歌山大会研究発表資料から

新型コロナウイルス感染防止のため、全国国公立幼稚園・こ

東京都中央区立有馬幼稚園園長は、本年度開催を予定して、いた第71回総会・研究大会埼玉大会、第67回全国公私立幼稚園大会、子ども園教育研究協議会和歌山大会を中止した。そうした中、開催に向けて準備した埼玉大会大会誌を全会員に配布、和歌山大会発表資料をホームページに掲載した。予定していた埼玉大会の東京都江東区立つばめ幼稚園（福原良子園長）の提言、和歌山大会の広島市立中筋幼稚園（岩本弥和園長）の研究発表の内容を紹介する。

作成した埼玉大会大会誌（左）と和歌山  
大会発表資料



# 広島市立 中筋幼稚園

**ビオトープ造り環境充実**

友達と興味や疑問伝え合う

「特別支援教育を通じて、同じ方法で支援できるようにしている。行政などの働き掛けにより、就学前に提出する就学支援シートの幼稚園記載欄は、個別指導計画の添付が認められた。これによって、保育者が書類作成にかける時間が減り、保育に向き合う時間の確保につながった。

育まれることを保護者に八

指導方法を話し合い、担任が一人で悩みを抱え込まないようにならました。特別支援教育は全ての子園全体でこうした取り組みを話して子どもの育ちを分かりやすく発信している。

ども一人一人を大切にする  
オーダーメードの教育で、  
支援が必要な子どもと学級  
の子どもが共に育ち合う教  
育であることを保護者に繰  
り返してきました。支援が必  
要な子どもの行動を理解し  
同士の悩みの共有や支え合  
いが行われ、チーム力の高  
めを進めたことで、保育者

けて話し合う中で、子どもたちは言葉で自分の思いを伝えること、相手の思いを受け入れ自分たちの発表に

向いて取り組んでいくこと、意見のぶつかり合いで、うまくできないことへの葛

藤なじを体験した。そして、  
やり遂げた達成感も感じる  
ことができた。

4年前から実践している  
「ミーティング」は月に2回実施。子ども里晖の保育

回実施二ども理解と保育者の援助について研究を進め、保育者の資質向上を図

保育者は互いの保育觀を  
知り、園の目指す主題につ

いて考ふる事がでてい  
る。短い時間で話すことで  
自身の保育を振り返って

東京都江東区立  
つばめ幼稚園

## 園児一人一人に支援表

## チームでの取り組み円滑化

東京都江東区立つばめ幼稚園では、子どもたち一人一人を「保護者に分かりやすく伝える」を提言している。

「チーム」での対応や関係機関・行政との連携を通して保育の質を向上する」で、一人に適切な指導と必要な支援を行うことを特別支援教育と捉え、保育を進めて支援を行なうことを特別支援

いる。その上で「チームで」は「チーム」での取り組みを「円滑」にするため園全体の情報を「共有」を進めた。支援が必要な

向上する」「特別支援教育を通じて育まれることを保証する」として、な子もにはこまやかな対応が必要になるため、職員